

講義名	自己発見とキャリア開発 A (K26)			授業形態	
担当教員	岡村 俊一郎	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1 時限 / 前期 木曜日 2 時限 / 前期 金曜日 1 時限 / 前期 金曜日 2 時限		
		単位数	8	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	FYE100

主題と概要

流通科学大学では 4 年間の教育課程の初めに「気づきの教育」を置いています。気づきの教育の目的は、自発的で積極的な行動を伴う多数の経験を通して得られる様々な「気づき」から、一人一人の「なりたい自分(夢の種)」を採り、それに応じて本学での 4 年間の学びをより充実させ、意義あるものにする事です。「自己発見とキャリア開発A」は、「気づきの教育」の幹となる必修科目です。大学での学びや社会に出てからの基礎となる能力について、気づいて向上させます。職や学び、ならびにその関連性について自ら即して気づきます。それらを踏まえて、将来の夢や目標をつかみ、将来を見据えた「4 年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を作成します。

到達目標

最終的な到達目標は「 」であるが、そのためには、「 」、「 」をしっかりと達成していることが大切です。6 つの基礎能力の必要性に気づき、「自分の現状を知り、向上させることができるようになる。また今後の継続的な向上のきっかけをつかんでおり、向上し続けることができるようになる。(6 つの基礎能力とは、「コミュニケーション力」、「常識力」、「グループワーク力」、「気づき力」、「創造力」、「学び力」)。「職」、「職」、「両者の関係性」について、自分自身に即して様々な気づきを得て、理解できるようになる。様々な気づきに基づき、自分自身に即して考えた上で、自分自身の将来の夢や目標を持ち、将来を見据えた「4 年間の学びの道筋(キャリアビジョン)」を獲得できるようにする。

提出課題

講義資料に付属のワークシートを作成し、プログラムによっては、ポスターなどを作成します。これらは、直ちに提出する場合、宿題として提出する場合、学生本人が保管して随時教員がチェックする場合など、様々です。いずれにしても、皆さんの貴重な成果物となります。成果物は後のプログラムで使う場合があります。講義資料は最後まで絶対になくさないように十分に注意してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出した課題については、全体での共有により講評、解説が行われます。また、教員からのフィードバックにより個別に公表が行われる場合もあります。ポスター作成では、自クラスだけでなく、他クラスと相互発表を行うことで理解を深めます。

評価の基準

各プログラムへの取り組み姿勢と上記の - の到達目標が達成されたかどうかによって成績評価します。取り組み姿勢については、出席したうえで、取り組みの態度、積極性、真面目さなどで総合的に評価されます。到達目標が達成されたかどうかは、ワークシートやポスターなどの成果物で判断することになりますが、取り組み姿勢が適切であれば到達目標が達成されるようなプログラムになっています。ワークシートは自らの気づきを十分反映させ、他者が見て分かる充実したものにしてください。遅刻・欠席が多かったり、取り組み姿勢が適切でなければ、低い評価になったり、不合格になったりします。1 / 4 以上の欠席は不合格になります。欠席が 1 / 4 より少なくとも、取り組み姿勢が不適切であったり、成果物が不十分であったりすると、不合格になります。不合格の場合、履休みの補習への出席や、後期に特別の科目や追加の科目を履修する必要があります。遅刻や欠席・まじかでない取り組み姿勢は、自分自身が講をするだけでなく、クラスやグループの他のメンバーに迷惑をかけることになるので避けてください。結局のところ、遅刻欠席をせずまじめに出席して、積極的に各プログラムに取り組むことが、到達目標の達成に結び付き、高い評価を得ることにつながります。

履修にあたっての注意・助言他

この科目は必修科目であり、対面での授業で実施します。あらかじめ割り付けられたクラスで受講して下さい。また受講に当たっては次に注意してください。
 (1) 欠席を控れない。この科目では様々な体験をするが得意なことでも苦手なこともあるだろう。失敗してもかまわないので、積極的に取り組んでほしい。失敗から成長が生まれる。
 (2) 周囲への配慮を忘れない。共に学ぶ仲間を尊重しよ。そして、他の人の取り組みをからかったりばかりにしたり、私語や迷惑をかける行為はやめよう。また、フィールド演習などで外部の人と接し、卒業生や企業人をお招きすることもある。普段から言葉遣いやマナーに注意して、社会人としての振る舞い方を身につけよう。
 (3) 遅刻・欠席は厳禁。自分自身が講をするだけでなく、グループの他のメンバーに迷惑をかけることになる。
 (4) 楽しもう。この科目を受講した先輩学生の多くは、「大変だけれどもやってみてよかった」、「楽しかった」、「力が付いた」と言っています。皆さんも、積極的に楽しんでこの科目を受講して下さい。
 (5) 分からないことがあれば、授業中に担当教員に遠慮なく相談すること。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

資料は各プログラムごとに配布します。多数の資料があるので、きちんと整理して保管してください。

授業計画

シラバス作成時点での予定であり、実際の学習計画とは少し異なる可能性があります。クラスミーティング実施時に詳細な計画を配布します。
 Stage1
 (1) クラスミーティング、(2) コミュニケーションキャンプ、(3、4) チームビルディング
 Stage2
 (5) 図書館活用講座、個別面談、(6) 建学理念・中内記念館・ダイエー資料館講座、個別面談、(7) キャンパスマナー講座、個別面談、(8) ポートフォリオ講座、個別面談
 Stage3
 (9) 職の気づき、資格特別プログラム講座、(10) コミュニケーション演習、(11) PROテスト、職の気づき、(12) 職業人との交流、(13) 職の気づき、国際交流プログラム、(14) 職業人との交流、(15) 公務員関連、基礎学力テスト、(16) コミュニケーション演習、(17) クラス縦断プログラム、(18) 職業人との交流、(19) 職の気づき
 Stage4
 (20 - 24) フィールド演習 -、(25) PRO解説、職の気づき、(26) クラス合同プログラム、(27) グループ面談
 Stage5
 (28) 行動計画・ポートフォリオ作成、(29) 成果のまとめと発表・今後の課題、(30) 「自己発見とキャリア開発」・後期に向けて

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及ぎそれに必要な時間

1 回の講義について、学期ならびに文部科学省の大学設置基準においては、4 時間の自己学習が必要とされています。したがって、この科目は 1 週間に 4 回の講義があるので、規則上は 1 週間に 16 時間の自己学習が必要とされています。各プログラムごとに作成するワークシート、振り返りシートなどは、宿題とされる場合もあります。フィールド演習の取りまとめなど、グループで授業時間外に打ち合わせや作業をする必要が生じます。ただし、ここで強調しておきたいのは、気づきの教育の目的を達成するには、このような科目の評価に関わる予備・復習だけをしておればよい10ではないことです。この科目で身に付ける「経験から学び」という態度は、学生生活の様々な場面で生かせるはずで、学生生活のあらゆる場面で「学び・気づき」の場として活用していただくことを、願っています。このような活動も、広い意味での「授業時間外学習」と言えるかも知れません。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
